

# 【Harmoware-VIS応用:感染経路可視化技術】

課題4-2:  
名古屋大学 河口 信夫

## 解決すべき課題

- ・ コロナ感染の経緯がある程度情報公開されているが、文字情報で公開されているだけで、実際の感染経緯が分からない。
- ・ 公開データがPDF、かつ自然言語で記載されており、自動処理のためには、揺らぎなどの処理が必要。

## 解決手段・方法

- ・ PDFデータのクレンジング・曖昧性解決を行い、データ処理可能な形式のデータを構成。
- ・ Graphvizなどの外部可視化ツールを用いて、各ノード位置の可視化を行う（位置の同定）。

### 【適用されるHarmo-wareモジュール】

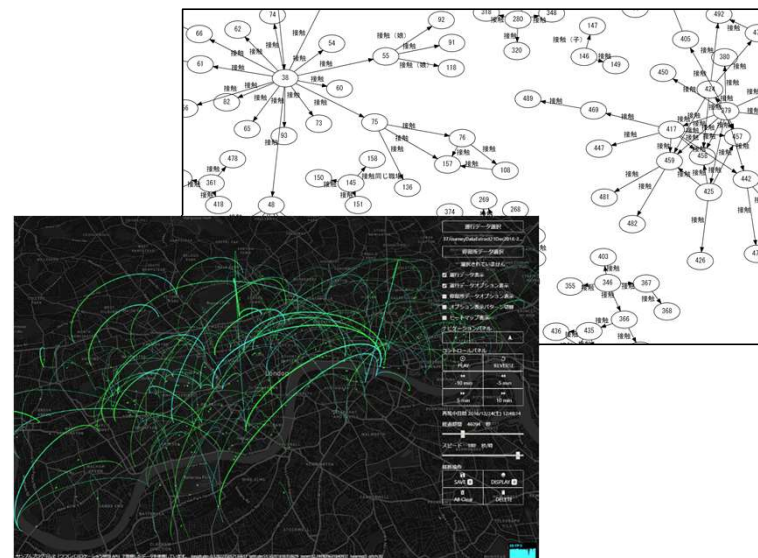
- ・ Harmoware-VISを拡張し、感染経緯などの様子を時系列で表示する仕組みを導入（時系列の導入）。

## 得られる価値

- ・ 実際にどのように感染が広がったのかを、可視化により広く周知すれば、感染防止教育の一環に。
- ・ 感染経路の分析を行い、より高度で効果的な感染防止策の策定が可能に。他分野連携も。

## イメージ図

愛知県のコロナ感染経路可視化(Graphviz)



Harmoware-VISによる感染経路可視化（イメージ）

## 本技術のポテンシャル（有用性・国際的状況）

- ・ 時空間情報で多様な関係を持つデータを、その関係を残したまま可視化できる枠組みは、様々なデータ分析に有用。
- ・ 国際的にも3次元動的な可視化はまだまだ多様な応用が進められている分野。